定通大会トーナメント作成及び上位大会出場者選出規定

１　個人対抗戦の組合せ方法について

第１段階　シード選手の位置を確定させる

（ア）シード対象大会は、以下のとおりとし、それ以外は認めない。

A)　春季大会　←　前年度の秋季大会の上位者（シングルス８本、ダブルス４本）

B)　秋季大会　←　直近の春季大会の上位者（シングルス８本、ダブルス４本）

C)　前回大会のシード対象者でありながら、前回欠席した者や経験者　＊専門部の判断で考慮

（イ）シード順は（ア）のA）またはB）が入った後、C）を入れる。

（ウ）シード選手（組）がエントリーされていない場合も本数の繰り上げは行わない。

（エ）ダブルスのペアが変更した時は、一人がエントリー段階で不参加の場合、他方がそのままシード権を有する。ペアが分離した場合は、シード対象大会でのシングルスが上位の者を含む組をシードとし、他方はシード権を失う（上位者が決まらない場合は、当該校のエントリー上位ペアをシードとする）。

第２段階　シード選手以外の位置を確定させる

①　シード選手を確定させた後、パック（シードと直接当たる位置も含める）に入る選手（組）を決める。パックは、シングルスにおいては第１から 4 シードに対応する位置、ダブルスにおいては第１シード及び第 2 シードに対応する位置とし、それより下のシードに対応する位置には設けない。まずは、エントリー数が多い学校を中心に、学校ごとのパック本数を決める。パック対象となるのは、その学校のエントリー順位が最下位の選手（組）からとする。ただし、この時点では選手（組）を決めるだけで、入る位置までは確定しない。なお、パック内での同校対決を避ける。

②　シード選手だけを表示したトーナメントを作成する。（パックの位置には×を表示）

③　各校の番手が高い選手（シード選手は除く）から１名ずつ、くじ引きする（A 校１番手　→　B 校１番手・・・A校２番手　→　B校２番手・・・）。最大でも３巡までとし、「残りくじ」の半分を超えないこととする。ただし、１巡で半分を超える場合は、１巡目はすべて入れる。「残りくじ」とは、トーナメントでシードとパックを除いた位置のことをいう。

ｱ　入れていく順番は、抽選とする。

ｲ　シード位置の高い場所から抽選に使用する（例えばシード４本で１番手が 10 人の場合、第５シードから第 14 シードまでの位置を、１番手の抽選で使用し、２番手は第 15 シードからの位置を使用）。

ｳ　シードを含めて自校の選手（組）が２本の場合には、２ブロックに分かれるように入れる。３、４本になる場合には、原則４ブロックに散らばるように入れる。４ブロック以上での偏りは考慮しない。

④　終了後、まだトーナメントに入れていない選手（組）とパックに入る選手（組）の位置を抽選により確定させる。

２　団体戦の組合せ方法について

個人戦の成績に応じてシード順を決める。考慮する個人戦の成績は、シングルスベスト 16、ダブルスベスト８以内とし、シングルスは各校の上位 2 本、ダブルスは上位１本とする。なお、ポイントは以下の通り。

優勝　　＝９ポイント

準優勝　＝８ポイント

ベスト４＝７ポイント（順位決定した場合、それぞれ３位＝７、４位＝６ポイント）

ベスト８＝５ポイント（順位決定した場合、それぞれ５位＝５、６位＝４、７位＝３、８位＝２ポイント）

ベスト 16＝１ポイント

３　上位大会選出方法について（春季大会が選考会を兼ねる）

まず、春季大会の個人対抗戦シングルスにおいては、ベスト８以上からダブルエリミネート方式の敗者復活戦を取り入れる。ただし試合数の増加を防ぐため、同一カード発生時は、最初の試合結果を反映し二度目は行わない。また、自身が負けた選手に勝った選手とも試合はできず、敗退することとする。加えて、必要に応じて順位決定戦を行う。これにより、シングルスの順位を辞退者対応を含め１～８位まで確定させてお

く。

全国大会は、男女それぞれで団体戦６名、シングルス２名の代表を決定し、東海大会は、男女それぞれで団体戦１校、シングルス２名、ダブルス２ペアの代表を決定する。

全国大会	→	団体戦メンバー	ダブルス優勝１組とそのペアを除いたシングルス上位４名の６名
		シングルス出場者	シングルス上位２名
東海大会	→	団体戦メンバー	団体戦優勝校（４名以上の登録校に限る）
		ダブルス出場者	団体戦優勝校メンバーを除いたダブルス上位２組
		シングルス出場者	団体戦優勝校、ダブルス出場者及び全国大会シングルス出場者を除いた上位２名

（各大会で辞退者が出た場合に繰り上げを行うが、その際は東海大会シングルス出場者条件の「全国大会シングルス出場者を除く」は適用しない。つまり、繰り上げの場合は、全国大会シングルス出場者が東海大会シングルスに出場可能となる。また、ダブルスの繰り上げに関しては、次点のペアが繰り上がることが基本になるが、全国大会の団体戦メンバーに選出されたペアのうち１名が辞退した場合に限り、残りの１名に出場権を与えつつシングルスの次点選手を繰り上げることとする。）

令和７年 ４月 １日